



# ふるさと笠松の「ちょっといい話」 No.82



## 「第36回 少年の主張大会が開かれました。」 小学生6人と中学生6人が「思い」を熱く語りました。

平成26年6月28日(土)に笠松中央公民館の大ホールにおいて、笠松町青少年育成町民会議の主催で、少年の主張大会が開催されました。出場者のご家族を始め、学校の関係者、知り合いの方々などの大勢の聴衆の前で、12人の子は精一杯発表してくれました。以下にそれぞれの子の主張のほんの一部を掲載いたします。どんな主張だったのかを知っていただく一助になれば幸いです。



下羽栗小学校 長田 真依さん  
「私のやりたい事」

6年生が荷物をたくさん持っているときに助けてくれた。私も人のために何かをやってみよう。ボランティア団体に入って困っている人を助けて。相手の立場になって行動していきたい。



下羽栗小学校 篠田 翔太さん  
「今 がんばっていること」

岐南町の卓球クラブに入部して活動している。卓球は相手との駆け引きが難しい。大会では練習の成果が試される。苦手のフットワークを練習し、自分のため、チームのために頑張りたい。



笠松小学校 徳宮 日菜さん  
「今までの私、これからの私」

堂々と挨拶したり話したりできていたが、人目を気にするようになってしまった。恥ずかしがっていてはだめだと思い、運動会などで大きな声を出した。これからも手本となるよう一生懸命やりたい。



笠松小学校 藤澤 旺佑さん  
「わいてきた自信」

何でもできるという自信を持って6年生になった。最高学年としての責任の重さを知り、代表委員や応援リーダーになった。運動会では負けた悔しさより、精一杯やり遂げたという達成感を味わった。



松枝小学校 山中 希美さん  
「ボランティアって何だろう」

ボランティアってどうしてもやらなくてはいけないの?そんな気持ちで始めたが、ボランティアの本当の意味は「感謝」することだと気づき、物や人への恩返しとしてボランティアに取り組んでいる。



松枝小学校 河合 瞬也さん  
「『今のぼく』がある」

柔道をやっている。辞めたいときでも家族に励まされて続けてこられた。試合にも勝てるようになった。自分が努力をすることで強くなれる。支えてくれた人への感謝の心を持って続けていきたい。



6人とも物怖じすることなく、堂々と自分の思いを主張できていました。素晴らしかったです。これからも今まで以上に自信を持って生きてください。よい主張を聞かせてくれてありがとう。

# 「第36回 少年の主張大会 中学生の部」

## 中学生6人が「熱い思い」を力強く語りました。



笠松中学校 石田 晴香さん  
「集団行動の意義」

集団行動は災害時にその力を発揮する。東日本大震災の時、世界は日本人の秩序ある集団行動の姿に驚いた。きっと中学校で学んだ集団行動が役立っている。集団行動は将来の自分を学ぶことである。



笠松中学校 嶋田 莉子さん  
「私が目指す世界」

校外あいさつ運動を広めたい。黙動掃除も普段から取り組むことが大切。人間の力は素晴らしい。見ず知らずの人にも救いの手を差し伸べる。理解し合うことが大切。医療関係の仕事に従事したい。



笠松中学校 岩田 響希さん  
「『グローバル』って何だろう」

オーストラリアから来たフランスは「日本は安全で、親切な国」と言っている。見た目は違っても心は同じ。遠いのは国ではなく心の距離である。グローバル化とはお互いのことを尊敬すること。



笠松中学校 宇佐美 慶典さん  
「部活の仲間」

野球部に所属し、常に勝つ気で試合に臨んでいる。ピンチではみんなが投手を盛り上げて、チャンスに変えてきた。仲間の野球に対する姿勢が分かり、楽しかった。野球をする機会もあと少しだ。



笠松中学校 道家 浩圭さん  
「ボランティアが与えてくれたこと 一夢」

ボランティアでお年寄りと交流をしている。帰り際に「ありがとう」と、手を握ってくれた。うれしかった。お年寄りと関わる仕事に就きたい。看護師になりたい。自分の夢を実現したい。



笠松中学校 岩田 幸奈さん  
「これからのエネルギーについて」

石油エネルギーは40年後にはなくなるかもしれない。原発は日本に57基あるが、大きなエネルギーが取り出せ、安定している。エネルギー源を偏りのないようにしたい。自分の意見を持ちたい。



素晴らしい発表をありがとうございました。力を